

南京 本省 六月一日前着
岡本領事
出中外務大臣
第一六六號ノ一

發ニ我新聞紙上政府ハ濟南事件ニ關シ蔣介石自身ノ謝罪ヲ要求スト報
セラレタル際袁良ヨリ斯ノ如キハ到底不可能ニ歸スルヲ以テ何等カ緩
和方政府ニ申送ラレ度シト依頼シ來リタルモ本官ハ石ハ寧ロ當然ナリ
シモ體好ク斷ハリタル處袁良ハ恰モ來電寧セル東亞礦業内出ニ對シ更
ニ幹施方ヲ求メタル趣内田ヨリ聞及ヒタルカ最近東亞本社ヨリ在九江
内田ニ對シ「佐藤（首相）ノ對支外交顧問ト傳ヘラルル代議士佐藤ナル
ヘシ」ハ軍事要求ハ師團長ノ獨斷ニ出テ閣議ニ關係ナシ蔣介石ヨリ正
式テナク氣ノ毒デアツタ位ノ申出テアラハ圓ク收マルヘシト云ヘル」
旨電報シ來リ右ノ趣袁良ニ傳言方内田ヨリ本官ニ依頼シ來レリ

P.V.M. 25 22

023

斯ノ如キコトヲ輕々ニ本官ヨリ外交當局ニ傳フルヘカラサルハ勿論ナ
ルヲ以テ何等ノ處置ヲ執ラサリシ次第ナルカ福田師團長要求ノ是非ハ
別トシ既ニ之ヲ支那側ニ提出シタル後或ハ政府ハ之ニ關知セストカ又
ハ條件ヲ緩和セシムトカ傳ヘラレナハサラデダニ固難ナル本件解決ヲ
一層困難ナラシメ師團長ノ地位ハ頗ル「オークワード」ノモノトナル
ヘキハ云フ迄モナク見方ニ依レハ支那側ニ於テ故意ニ遷延放置ノ策ニ
出テ居ルモノト考ヘラレサルニ非ス本件軍事要求ノ前途甚タ憂フヘキ
モノアリト思料セラレタル次第ナルカ最近松井中將ノ來訪ニ依リ支那
側ニ於テモ何等ノ望ヲ抱クニ至リタルカ如ク憂ニ屢々公私兩用ノ資格ニ
於テ本官ノ城内歸還代表派遣方ニ付テハ種々苦心シ居ル次第ナルカ何
人モ代表タルヲ欲セサルニハ各種ノ理由アルモ其ノ主ナルモノハ師團
長要求ノ範圍如何ナルモノヤ全然不明ナル點ニアリ、傳ヘラルルカ如
ク賀耀祖、方振武、陳調元等ヲ極刑ニ應スヘシトカ或ハ前記三軍長部

P.V.M. 25 23

024

下ノ武装解除ヲ爲スヘシト云フカ如キ峻烈ナルモノナレハ到底之ヲ應
諾シ得ス他方田中首相、松井部長ハ我代表ヲ通シ師團長要求ハ緩和セ
シムヘシト案次傳ヘラレ居ルモ其ノ緩和ノ程度判明セサルニ付代表派
遣ニ先立チ國民政府ノ態度ヲ決シ得サル次第ナリ依テ松井中將ヲ來濟
セル事ニモアリ此ノ際要求條項特ニ第一、第二ノ範圍ニ付大體ニテモ
承知スルヲ待ハ甚ダシク嫌悪シ居ルモ說得シテ河南ニ於ケル蔣作賓及
總司令部康中將等ヲ代表トシテ派遣スヘシ云々
松井中將ノ渡來カ本件ニ關スル善後處置ノ爲ナルヤ否ヤハ承知セサル
ヲ案次電請シタル通り李烈鈞外政府要路ヨリ申出ノ次第モアリ御差支
無キ限り小官含ミ迄ナリトモ本件ニ關スル御方針御見込御回示ヲ得タ
シ
公使、天津、濟南、青島、上海、漢口ニ轉電セリ
上海ヨリ廣東ニ御轉電ヲ請フ

P.V.M. 25

24

025

濟南事件交渉ニ關スル件 昭和三年六月二日

在南京向本領事

田中外務大臣

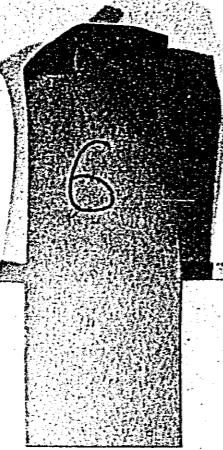
貴電第一六六號ニ關シ

松井中將ノ赴濟ハ第六師團長ノ南軍トノ交渉促進ニ付側面ヨリ之ヲ接
助スルノ使命ヲモ有シ居リ師團長自身モ今日トナリテハ當初ノ要求ヲ
固執スルノ意思モ無キカ如ク何應欽心配ノ點モ大ニ緩和セラレ居ル次
第故松井中將濟南滞在中ニ南方ニ於テ速ニ代表ヲ派遣シ商議セシムル
ニ於テハ充分成功ノ見込有リト信セラレニ依リ貴官ハ何應欽ニ對シ「
要求條項ノ内容ニ立入りテ云々スルコトハ自分ノ權限外ナルニ付之ヲ
差控エ度キモ松井中將ノ赴濟ハ師團長ノ交渉ヲ側面ヨリ援助スルノ使
命ヲモ有シ同中將ハ蔣總司令其ノ他南軍側ノ立場ニモ充分同情有ルコ
ト確實ナレバ自分ノ所言ヲ信賴シ至急適當ノ人物ヲ說得シ全權代表ト
シテ濟南ニ赴カシメ先ツ松井中將ト會見セシムル方得策ナルベキ」旨

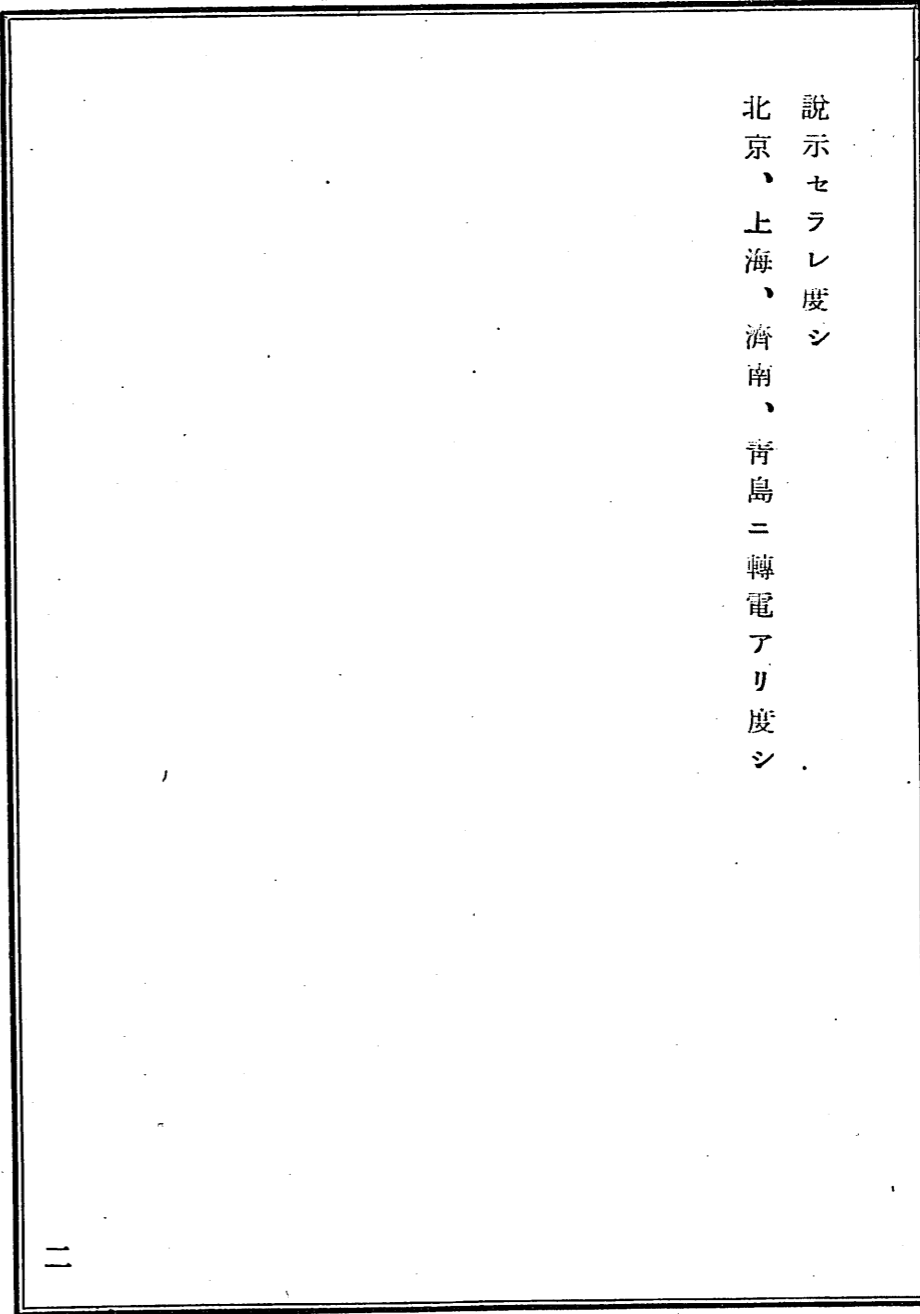
P.V.M. 25

25

026



説示セラレ度シ
北京、上海、濟南、青島ニ轉電アリ度シ



陸同文
電報
六月四日午後八、四五分發
午前八、五〇分着

參謀次長宛
在 第師團長

濟謀第六八號（其一、二）
濟南事件解決ニ關シ松井中將藤田西田領事等ト協議ヲ重ネタリ、當方
ノ忌憚ナキ意見左ノ如シ
一、軍事解決ノ促進ハ師團ノ体面上可ナルカ如キモ從來ノ行掛上及彼
我ノ情況上ヨリ見テ今日之レヲ師團ヨリ持チ出スコトハ不成立ノ場
合ニ於テ軍部ノ立場ヲ困難ナラシムルヲ以テ彼ヨリ交渉兩解ヲ希望
シ且ツ我要求ヲ容ルルノ誠意ヲ認メタル後ニ於テ正式交渉ニ移ルヲ
可トス
若シ蔣介石側ニ誠意ノ認ムルモノ無キ場合ハ單獨解決ヲ急クコト無
ク現狀ヲ以テ推移シ濟南事件ニ對シ政府ノ交渉ト共ニ解決スル方針

日本外務省領事館

ヲ採ルヲ必要トス
總長電第一一五號ノ解決ノ重點ハ三項ナルモ當方ニ於テハ行掛リ上余
リ讓歩的態度ヲ示ス如キハ幾多死傷者ヲ出セル現下軍隊統率上忍フ能
ハス
二、此ノ際蔣ニシテ軍事解決ニ應スルトスルモ四圍ノ狀況特ニ濟南及山
東鐵道沿線ノ我居留民不安ノ現況ニ鑑ミルトキ何等居留民保護ノ保障
ヲ獲得スルコトナク撤兵スルカ如キハ他ニ如何ナル國策アルニセヨ出
兵ノ聲明ニ對シ事實上不可能ナリ
之レヲ要スルニ居留民安住ノ保障ヲ得ル迄ハ所要ノ兵力ヲ濟南及鐵道沿
線ニ駐留セシメ其間本事件ニ對シ根本的解決ヲ爲スコト絶對ニ必要ナリ

P.V.M. 25 28

029

日本外務省領事館

濟南 本省 六月六日前着
田中外務大臣 西田總領事代理
第三一七號ノ一
藤田總領事ヨリ
濟南事件ハ國民革命軍カ長江ニ進出シ南京事件漢口事件ヲ惹起シタルト
同様ナル情勢ノ下ニ演セラレタルモノニシテ其ノ主因ハ政情ノ不安定ニ
依ル各派勢力ノ暗闘繼續シ其ノ首領ハ軍隊内ノ不良分子ヲ辨別淘汰スル
能力ト實力トヲ有セス加フルニ民心惑亂ノ方便トシテ排外的宣傳ヲ高唱
シ條約上ノ權利ヲ蹂躪シツツアル情勢ニ基キ遂ニ五月三日ノ暴擧ニ其ノ
端ヲ發シタルモノナリ之カ爲邦人ノ慘殺セラレタル者十三名凌辱セラレ
タルコト確實ナル者一名負傷者十六名掠奪破壞セラレタル家屋一三九軒
ノ多數ニ達シタリ惟フニ今後支那ニ於テ政情ノ安定軍隊ノ整理排外的宣

P.V.M. 25 29

030

傳ノ中止並ニ條約上ノ權利尊重ヲ見サル限リ支那官憲ニ誠意アリトス
ルモ其ノ聲明ハ毫千信賴スルニ足ラサルハ勿論今後共此ノ種排外的紛
亂ノ再發ハ到底免カレサルヘシ依テ帝國政府ハ支那現下ノ實狀ニ照シ
濟南事件ノ再發ヲ防壓スル爲必要不可缺ト判定シタル左記條件ヲ要求
ス

第一、直接被害ニ對スル要求

(一) 南京政府ハ邦人ノ被リタル虐殺暴行掠奪ニ對シ帝國政府ニ違
憾ノ意ヲ表示スルコト

(二) 邦人ヲ虐殺シ又ハ暴行ヲ加ヘ若ハ掠奪ヲ行ヒタル軍隊ノ幹部
及加害者ヲ嚴罰シ其ノ旨ヲ南京政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示ス
ルコト(單獨ニ軍事解決成立シタル時ハ本項ハ削除ス)

(三) 虐殺セラレタルモノ之辱辱ヲ受ケ又ハ負傷セルモノニ對スル慰
藉金

二

(四) 掠奪破壊ニ對スル損害賠償

第二、在留民ノ生命財産保護ニ對スル保障

(一) 山東方面現下ノ實狀ニ顧ミ民心ノ安定ヲ見ルニ至ル迄濟南青
島及膠濟鐵路沿線ノ重要地點ニ最小限度ノ日本軍隊ヲ駐屯セシム
コト

(二) 日本軍隊ノ駐屯期間ハ事端豫防ノ爲濟南青島及沿線兩側二十
支里ノ範圍内ニハ支那軍隊ヲ駐屯セシメサルコト

(三) 日本軍隊撤退後ト雖支那軍隊ハ濟南及青島各商埠地内ニ駐屯
セサルコト(濟南商埠地内ハ濟南事件ニ關シ當然駐兵ノ不可ヲ主
張シ得ヘク青島ハ遠附當時支那側ニ於テ自ラ駐兵ヲ希望セス警察
保安隊ヲシテ治安ヲ維持セシメ居リタル事實ニ徴シ駐兵ノ不可ナ
ルヲ主張シ得ヘシ)

(四) 南京政府ハ在留民ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ任スヘ
三

キハ勿論不當課税ノ如キヲ再ヒ徴收セストノ聲明ヲ發スルコト
 (五) 民(衆)ヲシテ直接行動ヲ誘導セシムルカ如キ排外的宣傳ハ
 一律之ヲ禁止スルコト

第三、膠濟鐵路ノ交通確保ニ對スル保障

(一) 從來支那軍憲ノ壓迫ヲ受ケ鐵路交通ノ安全ト自由トヲ妨ケラレ
 タル事實ニ鑑ミ膠濟鐵路局ヲ日支合辦ノ組織ニ改メ且速ニ鐵路及鐵
 路ト不可分ノ關係ヲ有スル青島埠頭ノ改善ヲ圖ル事

(二) 日支合辦ノ改組實現ニ至ル迄ハ膠濟鐵路ニ對スル日本擔保權ノ
 擁護並ニ多數日本人ノ枉復及食糧ノ供給安全ヲ圖ル爲其ノ沿線兩側
 二十支里ヲ限り交戰地帶ト爲ササル事

(三) 事務處長及會計主任ノ權限ヲ明確ニシ之ヲ擴張スルコト

右西田領事共協議濟尤キ右ハ濟南事件ノ起因ヲ深ク考察シ山東方面
 現下ノ實情ニ照シ最モ重キヲ將來ノ保障ニ置キ且分メテ條約論ニ觸ル

四

ルヲ避ケ實力ヲ主眼トスル根本的解決策トシテ起草シタルモノナルヲ以
 テ今後四圍ノ事情ト形勢ノ推移トニ依リ多少ノ手加減ヲ加フルノ要有ル
 ハ申ス迄モ無ク從テ尙考慮ノ餘地有ルハ勿論ナルモ原則トシテ之ヲ我方
 要求ノ骨子トスル事ハ妨無カルヘシト認ム尙場合ニ依リテハ此ノ際山東
 遼附條約中支那不履行ノモノ例ヘハ

(一) 青島在住ノ外國人ニ市政參與權ノ附與

(二) 膠濟鐵路沿線都市ノ開放

(三) 同沿線主要驛電信取扱所ノ開放

(四) 青島埠頭擴張工事遂行

等ヲ同案ニ附帶セル諒解事項トシテ提議スル事モ必要カト察セラル爲今
 申添フ

在支公使、青島へ轉電セリ

五

南京
本省 六月六日後着

田中外務大臣

岡本領事

第一七九號

既ニ御承知ノコトト思料スルモ左記爲念電報ス

松井部長ノ命ニ依リ重藤、佐々木中佐、大倉組岡田ト共ニ昨五日來寧
本官トモ打合セノ上右三名ノミ蔣介石ニ面會交渉ノ結果張群ヲ蔣ノ代
表トシテ黨家莊迄派遣シ松井ト會見セシムルコトトナリ同夜十時出發
セリ重藤岡田ノミ同行ス
往電第一七七號ノ通轉電セリ
上海ヨリ廣東ニ轉電ヲ請フ

日本インテリゲンチヤンス

P.V.M. 25

34

035

濟南
本省

六月七日前着

田中外務大臣

西田總領事代理

第三二八號

往電第三二二號ニ關シ

蔣介石ハ張群ヲ代表トシテ派遣スル旨松井中將ニ通報アリ松井中將ハ明
七日朝當地泰安間ニ在ル黨家庄ニ於テ張群ニ會見スルニ付本官ハ藤田總
領事ト打合ノ上右會見ニ立會フ爲同行スルコトトセリ
北京、青島、上海、南京ニ轉電セリ

日本インテリゲンチヤンス

P.V.M. 25

35

10

日本外務省資料

濟南

本省 六月八日前着

西田總領事代理

三? 田中外務大臣
第一三五號

今七日午前十時松井中將ト共ニ當地ヨリ特別列車ニテ黨家莊ニ赴キ松井中將ハ先ツ蔣個人ノ代表者トシテ來リタル張群ト二人限リ一室ニテ約一時間會見セルカ其ノ内容トシテ松井中將ノ談別電ス次テ松井中將ハ濟南事件前後ノ事情ハ本官ヨリ聽取スヘシト告ケ本官ハ松井中將等同席ノ上張群ニ對シ日本軍ノ出兵ヨリ南軍ノ入城、五月三日事變、五月七日以來ノ經過等ヲ述ヘ尙支那側ノ治安ハ治安維持會其ノ衝ニ當リ當面ノ措置ヲ執リ居ル實情ヲモ約一時間ニ亘リ敘述シ私見トシテ速ニ濟南事件ヲ解決スルコトハ日支双方ノ爲ニシテ若シ早目ニ本件ヲ解決セサレハ日支双方ニ不利ナルモ萬一ニモ支那側ニ於テ之カ解決ヲ遷延

P.V.M. 25 36

036

日本外務省資料

スルカ如キ意圖アルニ於テハ本件ハ益々解決困難トナルヘントノ意ヲ述ヘタルニ張群ハ

(一) 濟南事變概要ハ張本人カ事件當時日本ニ在リテ新聞ヲ通シ受承知シ居ルモ右事變ノ經過及實情ハ本官ノ説明ニ依リ能ク諒解シ又南方側ニテ誤解ノ點モ明瞭トナリタルカ南京政府ニハ南京政府トシテノ種々報告ノ集マリ居ルモノアリ双方ノ言フ所ニハ非常ニ相違アリ張自身トシテハ強チ日本側ノ言フ所ヲ信セサル譯合ニアラサルモノ南京政府又ハ蔣トシテハ日本側ノ言分ヲ鵜呑ニ出來サル立場ニアリ依テ南京政府トシテハ適當ノ人物ヲシテ親シク濟南ニ於テ實情ヲ調査サセ其ノ實情報告ヲ根據トシテ充分考慮致度ク
(二) 蔣及南京政府側ニ於テモ濟南事件ハ日支ノ爲至急解決ヲ欲セル次第ナルカ此ノ點ヨリスルモ濟南事件ノ確カナル實情ヲ成ルヘク速ニ承知致度ク

二

P.V.M. 25 37

037

REEL No. A-0033

アジア歴史資料センター

(三) 南京政府ハ御承知ノ通内部關係アリテ蒋介石カ福田師團長ニ陳謝スルカ如キ結果ニ至ラハ蒋介石カ全責任ヲ負ヒ黃郛ノ職ヲ踏ムニ至ルヘキヲ恐ルト稱シ體面問題、蒋介石ノ立場ニ付練返シ陳述シ居タルカ結局南京政府ノ適當ナル人物ノ來濟、實情ノ調査ト蒋介石ノ福田師團長ニ對スル陳謝ヲ避ケ南京政府對日本側代表者間ノ交渉ヲ進メ度キ意向ニ聽取セラレタルニ依リ本官ハ軍事直接ノ問題ハ既ニ松井中將トノ會談アリシ次第ナルカ自分トシテハ濟南事件ハ速ニ解決シ日支兩國人ノ人心ヲ安定セシムルコトノ肝要ナル次第ヲ力説シ南京政府ノ人物派遣ハ日本側トシテ取テ拒ム譯合ニアラサルモ支那側ノ治安ハ支那側ニ於テ擔任シ居リ其ノ實力モ充分ナラサルニ由リ反對派又ハ日本中傷ノ意味ニテ是等要人ヲ傷害スル如キコトナキヲ保セス又今日ノ火藥庫爆發事件ニアリ實際其ノ邊ノコトヲ憂慮シ居ル次第ニシテ若シ南京政府カ單ニ實情ヲ調査ノ必要アレハ泰安方面

三

日本外務省資料

ニ本據ヲ置キ充分調査出來得ヘキナリト思ハルモ尙福田師團長等トモ篤ト打合ハス必要モアリ即答シ難キモ自分トシテハ出來得ル限り盡力スルニハ吝ナラス唯右派員ヲ機會ニ一事件ノ解決ヲ見サル内ニ種々南方政府ノ畫策ヲ試ミルカ如キハ絕對ニ避ケ度シト述ヘ置ケリ尙張群ハ事件ニ於ケル日支双方ノ被害ヲ尋ネタルニ依リ今日迄ノ調査ノ大要ヲ告ケ置キタリ(一行午後四時歸濟セリ)

北京、青島、上海、南京へ轉電セリ

日本外務省資料

四

濟南 本省 六月九日前着 西田總領事代理

第三四二號

往電第三三五號ニ關シ

松井中將張群兩名ノ會談内容ハ松井中將ヨリ藤田總領事及本官ニ評述
有リシカ要領左ノ通

張ヨリ非公式ニ蔣ノ立場ヲ述ヘ蔣ノ陳謝ニ付テハ蔣地位ノ破滅ニ付何
トカ穩便ノ方法ニ依リタシト述ヘタルニ付松井中將ハ日本政府ノ蔣介
石ニ對スル好意ヲ詳述シ蔣介石ノ陳謝ハ日本軍ノ威信保持上絶對必要
ト共ニ虐殺其ノ他ノ不祥事件直接ノ責任者タル蔣介石カ日本軍ノ前ニ
陳謝スルハ當然ノ義務ニシテ義務ヲ果シ初メテ蔣介石ノ責任感大ナリ
トシテ我軍並ニ日本國民ノ信望ヲ繋キ且内外ニ其ノ人格ノ高キヲ認メ

シムル所以ニシテ日本及各國カ支那時局ニ對シテ有スル疑惑ハ國民軍
及其ノ幹物ノ責任感ノ強弱否有無ニアルヲ説述シタルカ遂ニ張群獨自
ノ決心ヲモ促シ得サリシヤニ松井中將ニモ印象セラレタルカ松井中將
ハ兎ニ角上海ニ赴キ蔣介石本人ニ面會シ更ニ右趣旨ヲ縷述スル事ヲ約
シタル趣ナリ
其ノ他ハ往電第三三五號ト大同小異ナルカ委細ハ七日附松井中將發參
謀次長陸軍次官宛電報ニテ御承知アリタシ
尙松井中將ノ談ニ據レハ張群トノ會談ニ於テ濟南事件ニ關シ南京政府
カ日本政府ニ對スル陳謝ハ兎ニ角トシテ蔣ノ六師團長ニ對スル陳謝ハ
不可能ノ意ヲ表シタルニ付松井中將ヨリ然ラハ寧ロ日本陸軍ヲ代表ス
ル松井ニ陳謝スルヤト問ヒタルニ張ハ默シテ答ヘサリシトノコトナリ
前電ノ通轉電セリ

南京 本省 六月十一日前着
田中外務大臣 向本領事

第一九九號

松井中將張群間圓滿ニ交渉進行セハ松井上海ニ來リ蔣介石亦同地ニ赴
キ謝罪ノ形式ヲ執ルニ至ルヘント聞及ヘル處張群八日夜歸來浦口ニテ
蔣介石ト交談翌九日朝發本官ニ傳言ヲ殘シテ上海ニ赴キ九日何應欽モ
本官ニ對シ「諸事圓滿ニ進行セリ」ト語レルヲ見テ松井張群間ニ談合
リタルモノト思料シ居タル次第ナルカ往電第一九五號ノ如ク蔣介石突
如辭職ヲ申出ツルニ至リタルハ其ノ表面ノ理由タル軍事終熄以外濟南
事件ニ關スル同人ノ立場益々困難トナリタルニ起因スト思料セラレサ
ルニアラス
即チ政治軍事ニ對スル其ノ潔白ヲ表示シテ將來ノ立場ヲ良好ナラシメ

043

他面体好ク濟南事件ノ責ヲ避ケテ非難ヲ防止セムト爲スニ在リ事實蔣
介石現官ノ儘ニテ謝罪ヲ爲スコトハ其ノ矢矧ヲ豫期セサル以上到底不
可能ナル狀態（ニ）在リタルハ案次在電ノ通ニシテ過日何應欽本官來
訪ノ際「八日以後ノ日本軍隊ノ行動ハ福田師團長ノ軍事要求貫徹シ
得ストシテ執ラレタル自由行動ニシテ即チ回要求ハ右自由行動ニ依リ
消滅セシモノト見ルヲ至富トス」ト語レルコトヨリ一般亦右同様ノ意
見ヲ持スル様感セラレタル際更ニ蔣介石ヲシテ謝罪セシムルハ不可能
ナリト觀測サレタル次第ナリ
而シテ政府側ニ於テハ蔣介石ハ革命軍ノ總司令ニ過キス同人ノ名ニ依
テ儘ニ謝罪等ヲ爲スヘカラサルハ當然ニシテ日本側カ一總司令ヲ相手
ニ國民政府ノ存在ヲ知ラサルカ如キ態度ニ出テタルハ蔣氏ノ濟南事件
交渉ヲ外交機關ノ手ニ移ス爲ト主張シ居リタルハ御承知ノ通ニシテ蔣
介石ノ辭職ハ當然政府側主張トモ合致スル次第ナルニ付政府側ト協議

P.V.M. 25 43

042

P.V.M. 25 42

ノ上ニ出テタルモノト見ラレサルニ非ス本十日李烈鈞ト會議ノ際モ蔣
總司令ノ辭職ハ條例ニ依リ早晚來ルヘキ處ニシテ獨リ蔣ノミナラス楊
樹莊馮玉祥^周錫山^周艦隊乃至集團軍總司令トシテノ職ハ之ヲ解ク事トナ
リ居レリト述ヘ新聞紙上緊急會議開催云々ト囀キ立テ居ルニ反シ何レ
月曜或ハ火曜ノ議ニ上ルヘシトテ頗ル冷靜ニ構ヘ譚延闓^周ハ湯山ニ其ノ
他ノ要人モ多ク上海ニ赴ケル様ノ状態ナリ右様ノ状態ナルヲ以テ蔣介
石ノ辭職ニ依リ直ニ現政府ノ没落其ノ他ノ政變有ルヘシトモ思ハレス
蔣介石亦不日別様ノ形式ニ依リ出盧スルニ至ルヘシト思料ス
而シテ今後ノ國民政府ノ勢力ハ案次往電ノ通干右任、韓馥^周、李烈鈞
易培基、王正廷、唐悅良、張之江、熊斌等ノ多數ヲ擁スル馮玉祥系ト
宋子文、孔祥熙總司令部幹部外軍人並ニ何應欽夫人ノ兄タル交通部長
王伯群等ノ蔣介石派(王ハ必スシモ蔣派ニ非サルモ何應欽ト行動ヲ共
ニスト見ラル)ト李濟^周、李宗仁、白崇禧等廣西派アリ極右派タル西

三

044

P.V.M. 25

44

山派ハ張靜江、張繼アリ近ク王龍憲歸來セハ極左派亦相當増加スヘシ
ト觀測サレ將來相當紛糾スヘキヤニハ思料サルルモ現ニ組織漸ク固マ
リ大体常道ヲ歩ムモノト考ヘ誤リ無キニ非サルカ
唯最モ注意スヘキハ申ス迄モ無キコト乍ラ濟南事件ノ解決無ク飽迄武
力ヲ^周ニ全在留民ノ引揚ヲ行ツテ要求ヲ貫徹セシムルカ或ハ又面目問
題ハ適當ニ妥協シ實益ヲ追フノ舉ニ出ツルカ公井中將ニシテ上海ニ來
ル以上相當ノ默契アリトモ考ヘラレ若シ事實トセハ幸ナリ
公使ニ御轉電ヲ請フ(轉電濟)
前電ノ通轉電セリ
上海ヨリ廣東ニ御轉電ヲ請フ

四

045

P.V.M. 25

45

西園寺公明
ノ爲原
秘書爲原
六月十一日

濟南事件善後交渉ニ關スル件

昭和三年六月十一日

五月七日在濟南第六師團長ハ支那側ニ五箇條ノ要求ヲ提出シ之ニ對シ満足ナル回答ヲ得サリシ爲五月八日ヨリ十一日ニ亘リ軍事行動ヲ執ルニ至リタル處其ノ後我軍ニ於テハ支那軍隊ノ膠濟鐵道沿線駐兵禁止、暴行軍隊ノ長官以下幹部ノ嚴罰、蔣總司令ノ陳謝、押收支那軍武器ノ返還、支那軍隊ノ津浦線使用等ノ事項ニ付軍ヨリ直接交渉スルノ必要ヲ認メ蔣介石ニ代表者ノ派遣ヲ求メタル結果張群蔣個人ノ代表トシテ來ルコトトナリタルヲ以テ過般來山東ニ出張中ノ參謀本部第二部長松井中將ハ右軍事的解決ヲ速進セシムル爲六月七日黨家莊（濟南ノ南方數里）ニ於テ右張群ト會見シタル處張群ハ蔣介石ヲシテ陳謝セシムルコトノ困難ナル事情等ヲ屢述シ容易ニ我軍ノ要求ヲ容ルル様子ヲ示ササリシ趣ナリ

右ノ如キ事情ニテ本件軍事的解決ハ急速成立ノ見込ナク地方本事件解決ノ遷延ハ不得策ナルニ付政府ニ於テハ本事件ニ關スル全般的解決ヲ遂クルノ方針ヲ以テ外交交渉ヲ開始シ度キ意嚮ナリ

至急陸同文 昭和三年六月十七日

電報 六月十六日 午後四、一〇分發
午後八、一〇分着

總長宛 在第六師團長

濟謀第八六號（其一―其五）

第六師團當面ノ情況ニ鑑ミ左ノ如ク意見具申ス
意見

日本政府ハ蔣介石ノ下野ヲ機トシ濟南事件ヲ外交交渉ニ移スト共ニ其
解決ヲ有利ナラシメ且不安ナル居留民ノ生命財産ヲ保護スルタメ當分
必要ナル軍隊ヲ濟南青島及ヒ膠濟沿線ニ駐劄セシムル如ク準備スルヲ
要ス

理由

一、事件當面ノ責任者タル蔣介石ノ下野ハ其名義ノ如何ニ拘ハラズ彼

ノ最モ苦痛トセル濟南事件ニ於ケル責任ヲ回避シ事件ヲ有耶無耶ニ辨
ラントスル支那一流ノ顯著手段タルヤ勿論ナリ從テ軍カ彼ノ責任ヲ問
ヒ謝罪ヲ要求セシコトモ既ニ其對象ヲ失ヘルヲ以テ今後ハ自然之レヲ
國民政府ニ要求スルコトトナルヘク果シテ然ラハ此ノ機會ニ於テ本交
渉ハ全部外交問題ニ移シ以テ日本及軍部ノ威信ヲ貫徹スルト共ニ其解
決迄ハ濟南青島及ヒ膠濟鐵道沿線ニ軍隊ヲ配置シ交渉ヲ有利ニ進展セ
シムルコト必要ナリ
蓋シ國民政府特ニ王正廷ノ如キ狡猾ナル相手ハ彼カ洩セル言ノ如ク事
件ノ解決ヲ極力遷延シ日本國民性ノ熱シ易ク冷メ易キ缺點ヲ利用セン
トスルハ當然ニシテ事件ノ解決ハ爾後相當長引クモノト覺悟セサルヘ
カラス然ルニ國民政府ノ山東ニ於ケル目標ハ政治ノ中心タル濟南及ヒ
收入豊富ナル鐵道沿線ト青島ヲ掌握スルコトアルハ論ナク日本軍カ此
處ニ占據シ依然トシテ支那軍ノ二十支里内進入ヲ阻止シ政權ノ擴張課

祝等ニマデ苦痛ヲ感セシメアル間ハ彼ノ最キ苦ム處ニシテ王ノ所謂漫々的ニ對スル唯一ノ妙藥ナルヘシ

二、駐兵ノ時期ハ斯クノ如クシテ相當長時ニ亘ルコトヲ覺悟セサルヘカラス之カ爲メ外部ニ對スル顧慮ヨリ將又國帑節減ノ上ヨリ見テ目下ノ駐屯兵力ハ適當ノ時期ヨリ逐次之レヲ整頓シテ最後ニ於テハ六七千名ニ節シ其歩騎兵ノ數ヲ増加シ之レニ飛行機裝甲自動車其他ノ新兵器ヲ豊富ニ配屬シテ要地ニ分駐セシメ萬一ノ場合ニハ内地若クハ滿洲ヨリ應援スルコトハ過般ノ事件直後ニ於ケルカ如グスルヲ有利トス

三、本駐兵間青島ニ於ケル特別市政ノ施行膠濟鐵道及青島埠頭事務ノ改善日本勢力ノ擴張等ニ關シ目下青島及濟南ノ我外交官憲カ著手シ若クハ著手セントシツツアル事項ニ就キテハ軍部トシテ之レヲ後援支援スヘキハ勿論ナリ

四、以上ノ理由ニ依リ取敢ヘス左ノ處置ヲ執ルヲ要ス

三

P.V.M. 25

50

050

イ、日本政府ハ蔣介石ノ責任回避ヲ機會トシ濟南事件ハ之レヲ外交問題ニ移スヘキコトヲ聲明シ師團長ノ要求セル各項ハ之ヲ交渉ノ内ニ加フ

ロ、日本政府ハ自發的ニ適當ノ時機ニ於テ現在駐屯兵力ヲ整理シ總兵力約六、七千（飛行機輸送自動車無線電信火焰放射器照明彈等ノ新兵器ヲ附ス）ヲ濟南又ハ其以東ノ要點ニ配置スヘキ部隊トスレハ歩兵及ヒ騎兵ノ兵力ヲ増加スルコト必要ナリ

ハ、青島ニ於テ藤田總領事ノ採リツツアル特別市政ノ施行其他ニ就テハ十分之レヲ支援シ此機會ニ於テ山東ニ於ケル政府及邦人ノ利權ヲ確保シ以テ外交交渉ヲ有利ニ進展セシム

ニ、駐屯各地ニ於ケル兵舎其他ヲ之ニ應スルカ如ク設備ス

關東、北京、天津スミ

四

P.V.M. 25

51

051

軍事的解決交渉

一、何總參謀赴濟

イ、五月九日葛參謀處長在南京岡本領事ニ對シ本日午后三時頃ヨリ上海經由ニテ蔣介石ヨリ福田師團長宛「全權代表トシテ何總參謀ヲ濟南日本司令部ニ派シ細目協定ヲ爲サシムヘク白旗二流ヲ立テ汽車ニテ進行スヘキニ付前線將士ニ同代表ヲ無事通過セシムル様命令サレ度」旨再三申送レルモ不通故同領事ニ於テ海軍無線ニテ右取次カレタシト申出アリ依リテ同領事ニ於テ右趣旨ノ蔣發師團長宛電報和文及英文ヲ取次タリ

ロ、右ニ對シ師團長ハ「本司令官ノ要求ヲ全部承認セラレタル意味ナリヤ返事承リ度其上ニテ貴代表派遣ノコトハ何分ノ儀回答スヘシ」ト答電セリ

ハ、右何總參謀ハ兎ニ角赴濟師團長ト會見セルモノノ如ク十六日歸寧

右會見ニ付左ノ通語レル趣

師團長ハ軍使ヲ遇スルノ途ヲ知ラス予ニ對シ會見ノ際椅子ヲモ與ヘス傲然タル態度ニテ予ノ發言毎ニ高壓的批評ヲ加ヘ威嚇ヲ受ケタルカ不愉快極マレリ彼ノ如キ態度ナラハ何人モ會見スルヲ欲セサルヘシ

二、蔣ノ直接電信交渉提議

イ、五月十四日在南京岡本領事ハ「蔣介石ヨリ諸般ノ打合ヲ直接福田師團長ト話シタキニ付師團長ニ於テ同意ナラハ至急短波無線ノ波長等取極ラレ度趣ヲ以テ外交部ヲ通シ本官ノ幹施ヲ求メ來レル」旨濟南ニ電報セリ

ロ、右ニ對シ福田師團長ハ十五日頃蔣介石ニ對シ「直接交渉ニ同意スルモ無線ハ都合悪シキニ付有線ノ回復ヲ俟ツカ然ラサレハ委任狀ヲ有スル代表ヲ特派セラレタシ」ト傳達方岡本領事ニ依頼セリ

三、福田司令官ノ全權委員派遣督促

次イテ十六日頃師團長ハ前記十五日ノ電報ニ關シ蔣介石宛「交渉全權委員派遣ノ儀ハ如何ナリシヤ本司令ハ日本軍及日本人ニ危害ヲ加ヘタルモノニ對シ自衛ノ行動ヲ執レルモノニシテ貴總司令ハ勿論南軍全部ニ敵意ヲ表シ或ハ其北伐ヲ妨グルモノニ非ス速ニ何分ノ回答アリタシ」ト傳達方在南京岡本領事ニ依頼セリ

四、軍事的解決案

五月七日福田師團長ヨリ提出セル五個條ノ要求ハ爾後ノ實力行使ニ依リ一應落着ヲ見タルモノトノ陸軍側解釋ナルカ更ニ五月十五日參謀總長ハ同師團長ニ對シ左記要旨ノ電訓ヲ爲セリ

大体左記條件ニテ速カニ軍事的解決ヲ爲スヲ要ス

- 一、山東鐵道沿線兩側地區ニハ治安維持上妨ケナシト認ムル迄南北兩軍ヲ駐兵セシメサルコト

三

- 二、押收武器ハ指示アル迄差富リ南北軍孰レニモ交付セサルヲ可トス尤モ師團長ニ於テ治安維持上妨ケナシト認ムル時期トナラハ之ヲ還付スルノ意見アルコトヲ隊メ示ス可ナリ
- 三、掠奪暴行ヲ働キシ軍隊ノ長官以下幹部ノ嚴罰
- 四、革命軍總司令止ムヲ待サレハ之ニ相當スル權威アル代表ノ陳謝
- 五、以上ノ要求ヲ認メタル場合南軍ノ北伐ヲ妨害セサルノ趣旨ニ基キ任務達成上支障ナキ限り南軍ノ浦線^津使用ハ先ツ軍需品ノ通過ヲ許ス程度ニ始メ爾後ハ師團長ノ裁量ニ依リ其範圍ヲ擴張スルヲ可ナリ

四

16

五、松井部長及西田領事ト張祥ノ曾見
 五月末松井參謀本部第二部長ハ前記軍事の解決促進ノ目的ヲ以テ山東方面ニ出張セルカ同部長ノ命ニ依リ重藤佐々木兩中佐及大倉組岡田六月五日南京ニ於テ岡本領事ト打合せ右三名ニテ蔣介石ト面會交渉ノ結果蔣ハ其ノ個人的代表トシテ張祥ヲ濟南南方ノ黨家莊ニ派遣松井部長ト曾見セシムルコトトナリ張ハ同夜十時發重藤岡田同伴北上シ七日午前黨家莊ニ於テ同部長及西田領事ト曾見セリ
 右曾見ニ際シ先ツ松井部長及張ノ二人ノミニテ會談セルカ其際張ハ非公式ニ蔣ノ立場ヲ述べ蔣ノ陳謝ハ同人地位ノ破滅ニ付穩便ノ方法ニ依リタシト述べタルヲ以テ部長ハ日本政府ノ蔣ニ對スル好意ヲ詳述スルト共ニ其ノ陳謝ハ日本軍ノ威信保持上絕對必要ト共ニ事件直接ノ責任者トシテ當然ノ義務ニテ之ヲ采シテ始メテ同人ノ責任感大ナリトシテ日本側其他内外ノ信望ヲ緊キ得ヘキ次第ヲ詳述セルカ張ハ南京政府ヨ

五

P.V.M. 25

56

056

リ日本政府ニ對スル陳謝ハ兎モ角蔣ノ師團長ニ對スル陳謝ハ不可能トノ意ヲ表セルヲ以テ部長ハ然ラハ蔣ヨリ日本陸軍ヲ代表スル松井ニ陳謝スルヤト問ヘルニ張ハ默シテ答ヘス結局張獨自ノ決心サヘキ促シ得サリシヤノ印象ヲ受ケタルカ尙部長ハ兎ニ角上海ニ赴キ蔣ニ右趣旨ヲ面談スヘキ旨約セル趣ナリ
 次イテ西田領事ハ張ニ對シ事件ノ經過及治安維持ノ現狀ニ關シ説明シ本件ハ速カニ解決スルニ非サレハ日支双方ニ不利ナルモ萬一支那側ニ於テ之ヲ遷延スルカ如キ意圖アルニ於テハ益々解決ノ困難ヲ來スヘシト述べタルニ張ハ本事件ニ關シ南京政府ノ受ケ居ル報告ハ日本側言分ト大イニ異リ直ニ後者ヲ鵜呑ニ出來サル立場ニ在リ一方本件ノ急速解決ハ其ノ希望スル所ナルヲ以テ適當ノ人物ヲ濟南ニ派シ其實情調査報告ヲ俟テ考慮シ度旨述ヘ之ニ對シテハ領事ヨリ別項（入濟策動者ニ關スルレジュナ）ノ通應酬セリ

六

P.V.M. 25

57

057

REEL No. A-0033

アジア歴史資料センター

結局本曾見ニ於テ先方ハ南京政府ヨリ實狀調査員ヲ濟南ニ派遣シ又蔣ノ師團長ニ對スル陳謝ヲ避ケ南京政府對日本副代表ノ交渉ニ進ミ度意向ナルヤニ看取セラレタリ尙張群ハ日支双方ノ被害ニ付尋ネタルヲ以テ領事ヨリ同日迄ノ調査ノ大要ヲ告ケタリ

058

P.V.M. 25

58

濟南事件解決條件案

昭和三年七月十日閣議席上田中大臣ヨリ披露閣僚ノ了解ヲ經タルモノ

(一) 謝罪

國民政府ハ其ノ軍隊ノ邦人ニ加エタル虐殺暴行掠奪ニ對シ帝國政府ニ謝罪スルコト

(二) 處罰

邦人ヲ虐殺シ暴行ヲ加エ又ハ掠奪ヲ行ヒタル支那軍隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰ニ處シ其ノ旨ヲ國民政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示スルコト(必スシテ固執セス)

(三) 損害賠償

イ、慘死者ニ對スル弔慰金ノ支拂
ロ、負傷者及暴行ヲ受ケタル者ニ對スル慰籍金ノ支拂

059

P.V.M. 25

59